

日医ニュース

No. 1349
2017. 11. 20

発行所 **日本医師会**
Japan Medical Association

〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
電話 03-3946-2121(代) / FAX 03-3946-6295
E-mail wwwinfo@po.med.or.jp
http://www.med.or.jp/

毎月2回 5日・20日発行 定価 2,400円/年(郵税共)

トピックス

- 都道府県医師会 小児在宅ケア担当理事 連絡協議会 …… 3面
- 受賞者の功績紹介 …… 4～5面
- 勤務医のページ …… 8面



日本医師会設立70周年記念式典並びに医学大会が11月1日、日医会館大講堂で盛大に開催され、日本医師会最高優功賞、優功賞、医学賞、医学研究奨励賞の授与と、併せて長寿会員慶祝者の紹介、医学賞受賞者による記念講演が行われた（関連記事4～5面参照）。

日本医師会設立70周年記念式典並びに医学大会

長きにわたり、医学・医療の発展に 貢献してきた功労者を顕彰

医政局長代読）は、本医学大会の意義を称えた上で、「日医が長きにわたり、国民のために医学・医療の発展と質の向上に努められ、わが国の保健医療を支えて下さったことに改めて感謝する」とした。更に、横倉会長の世界医師会長就任に対し心からの祝意を示すとともに、「災害や公費、感染症対策を始めとして、わが国の医療の発展に大きく貢献してきた日医の見識や経緯、そして先見性が、日本国内に限らず世界各国で生かされることを大変うれしく思う。横倉会長のリーダーシップにより、世界の保健医療水準が大きく向上していくものと信じている」と述べた。

冒頭、あいさつに立った横倉義武会長は、去る10月13日に開催された世界医師会シカゴ総会において、世界医師会会長に就任したことを報告し、「国民の健康寿命を世界トップレベルにまで押し上げてきたわが国の優れた医療システムが、世界が経験したことのない高齢社会を安心へと導くモデルとなり、これを世界に発信すること、世界中の人々の幸福の実現に貢献できるような最大限の力を尽くしていく」との決意を示した。

また、日医が、本年6月、一般社団法人日本記念日協会に対して、設立記念日である11月1日を「いい医療の日」として「いい医療の日」として記念日登録を行い、認定を受けたことや、制定を記念してオリジナルの記

念切手を発行したことを披露。「本日が最初の『いい医療の日』であり、この登録をきっかけに『いい医療の日』が国民に広く認知され、公に認められるよう今後とも必要な活動を行っていく」と述べ、受賞者の多大なる功績に敬意を表した。

横倉会長

加藤厚労大臣と 適正な医療費の確保に向けた協力を確認

今回の会談では、まず、横倉会長が、安倍晋三内閣総理大臣が11月1日に発足する第4次安倍内閣において現閣僚を全員留任させる意向を示したことに触れ、再任への祝意を示すとともに、引き続きの協力を求めた。

また、自身が10月の世界医師会シカゴ総会で世界医師会会長に就任したことを報告し、これまでの支援に対する謝辞を述べた。その上で、平成30年度の予算編成に向けては、資料を基に日医の考えを説明。「厳しい財政状況から、医療費が青天井で増加することを心配する声もあるが、日本健康会議での取り組みなど、我々医療側の努力により、国民医療費の実績値



横倉義武会長は10月31日、厚生労働省で加藤勝信厚労大臣と会談を行い、適正な医療費の確保に向けて両者が協力して対応していくことを確認した。

は、過去の推計値を大きく下回っている」とした。横倉会長は、また、①高齢社会にあって医療・福祉分野は需要の増加が見込まれること②2000年から2011年にかけての医療・福祉分野の国内生産額の伸びが最も高いこと―等を示し、「医療に財源を投入すれば、特に医療従事者の比率が高い地方では経済の活性化により、経済成長を促し、地方創生への多大な貢献にもつながる」と指摘。診療報酬の仕組みについても触れ、昨今の新聞報道では医師の報酬改定をマイナスにする方針との報道がなされたことも話題となったが、加藤厚労大臣は報道内容も、適正な医療費の確保のため、日医と厚生労働省が協力して対応していくことを確認した。

その他、会談では、当日の全国紙の朝刊で厚労省と財務省が次回の診療報酬改定をマイナスにする方針との報道がなされたことも話題となったが、加藤厚労大臣は報道内容も、適正な医療費の確保のため、日医と厚生労働省が協力して対応していくことを確認した。

本医師会医学賞受賞者による「骨免疫学による自己免疫疾患および骨関節疾患の研究」（高柳広東京大学大学院医学系研究科教授）、「未病と予防の遺伝環境医学に関する研究」（小泉昭夫京都大学大学院医学研究科教授）、「糖尿病病態の分子生物学的解析と新規糖尿病治療法開発への応用」（荒木一熊本学大学院教授）の3講演が行われた。また、門田守人日本医学会長が、日本医師会医学研究奨励賞を受賞した15の研究概要を紹介し、大会は終了となった。なお、白寿会員47名、米寿会員869名の慶祝者には、更なる長寿を祈念して、後日、銀盃が贈呈された。

足時に十分な技術評価ができなかった不足分に相当する潜在技術料が、それぞれ含まれていることを説明し、理解を求めた。更に、安倍総理が経済財政諮問会議で春季労使交渉において3割の賃上げを要請したことを受けて、「民間病院はベースアップの実施率、賃金の改定額、同改定率のいずれにおいても改善が遅れており、医療関連職種だけが取り残されるわけにはいかない」と訴えた。一方、改定を行う財源については、薬価引き下げ財源などを活用することを求め、11月上旬に公表される医療経済実態調査の結果を踏まえた適切な判断を求めた。

日医 定例記者会見

10月25日

第48回

衆議院議員総選挙の

結果を受けて



横倉義武会長は、10月

22日に投票が行われた第48回衆議院議員総選挙について、「与党から安藤高夫先生、国光文乃先生が初当選されるなど、8名の医師の先生方が、野党からも4名の医師の先生方が当選された。よい良い社会保障の実現のために手を携えて協力していきたい」と述べた。

「今回の政権与党の勝利は、社会保障の充実の実現を期待する国民の思いの表れである」との認識を示した。

「今回の政権与党の勝利は、社会保障の充実の実現を期待する国民の思いの表れである」との認識を示した。

「今回の政権与党の勝利は、社会保障の充実の実現を期待する国民の思いの表れである」との認識を示した。

更に、総選挙前の9月26日に二階俊博自民党幹事長に対して要望書を手交したことを明らかにし、「本要望は、自民党の公約と総合政策集『J-1 ファイル2017』に盛り込まれたが、特に『J-1 ファイル2017』における『成育基本法の制定』と『受動喫煙対策の徹底』は、日医からの強い要望により明記されたものであり、今後の施策に反映されることを期待している」と述べた。

また、「わが国では、医療・介護には就業者全体の11・9%が就業しているが、産業界全体として賃金引き上げの傾向が明らかに見られる中、300万人以上の医療従事者へのベースアップの実施や賃金改定の改善が遅れている」と指摘。「平成30年度予算編成において、適切な手当を確保していく」と述べた。

また、「わが国では、医療・介護には就業者全体の11・9%が就業しているが、産業界全体として賃金引き上げの傾向が明らかに見られる中、300万人以上の医療従事者へのベースアップの実施や賃金改定の改善が遅れている」と指摘。「平成30年度予算編成において、適切な手当を確保していく」と述べた。

また、「わが国では、医療・介護には就業者全体の11・9%が就業しているが、産業界全体として賃金引き上げの傾向が明らかに見られる中、300万人以上の医療従事者へのベースアップの実施や賃金改定の改善が遅れている」と指摘。「平成30年度予算編成において、適切な手当を確保していく」と述べた。

世代型の社会保障を充実して欲しいという民意の表れではないか。社会保障の中核を担う医療費を抑制することは国民の期待に反するものである」と強調。「診療報酬は『医師の給与に当たる本体部分』と報道されているが、診療報酬の技術料には医師、看護師などの医療従事者の人件費だけではない、医業経営の原資をつ

かきとる設備関係費・ラックコストや医療機器・機材費等も含まれていることを理解して欲しい」とした。

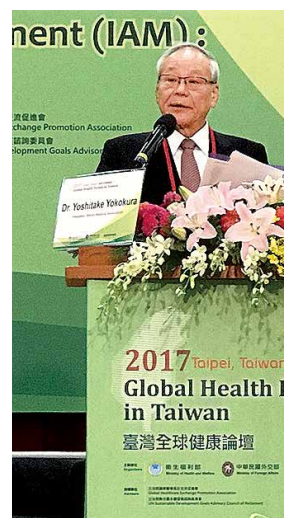
最後に、横倉会長は、「2025年に向けて改革が進む中で、来年度の診療報酬・介護報酬の同時改定は非常に重要な意味を持っている。国民が将来にわたって、必要とする医療・介護を過不足なく受けられるよう、これからも引き続き、政府に対して強く働き掛けていく」と述べた。

も日医が主張してきたように、安心して社会保障を受けられる環境を整えること、経済が活性化し、税収も増え、結果的に財政再建

も日医が主張してきたように、安心して社会保障を受けられる環境を整えること、経済が活性化し、税収も増え、結果的に財政再建

も日医が主張してきたように、安心して社会保障を受けられる環境を整えること、経済が活性化し、税収も増え、結果的に財政再建

も日医が主張してきたように、安心して社会保障を受けられる環境を整えること、経済が活性化し、税収も増え、結果的に財政再建



横倉義武会長は、2日目のセッションの開会に際し、WMA会長として、

「今回の政権与党の勝利は、社会保障の充実の実現を期待する国民の思いの表れである」との認識を示した。

「今回の政権与党の勝利は、社会保障の充実の実現を期待する国民の思いの表れである」との認識を示した。

「今回の政権与党の勝利は、社会保障の充実の実現を期待する国民の思いの表れである」との認識を示した。

「今回の政権与党の勝利は、社会保障の充実の実現を期待する国民の思いの表れである」との認識を示した。

「今回の政権与党の勝利は、社会保障の充実の実現を期待する国民の思いの表れである」との認識を示した。

「今回の政権与党の勝利は、社会保障の充実の実現を期待する国民の思いの表れである」との認識を示した。



蘇立法院院長と

横倉義武会長は台湾衛生福利部、外交部の主催の下に10月22、23日に開催された2017グローバルヘルスフォーラム台湾に、世界医師会（WMA）会長として招待され出席した。

横倉会長は、2日目のセッションの開会に際し、WMA会長として、

待合室等に掲示して下さい

日医ではこのほど、「医療機関がまちを元気にしていること」「国民に安心を届け続けるために、日医が国に必要な医療費の確保を求めていること」——の2点について、国民に理解を求めることを目的として、別掲のポスターを作成しました。

本ポスターは日医のホームページ (<http://www.med.or.jp/people/opinion/000002.html>) からダウンロードが可能です。ぜひ、ご利用下さい。

元気なまちは医療から

さらに詳しくは医療機関がまちを元気にしていること、国民に安心を届け続けるために、日医が国に必要な医療費の確保を求めていること。国民に理解を求めることを目的として、別掲のポスターを作成しました。

本ポスターは日医のホームページ (<http://www.med.or.jp/people/opinion/000002.html>) からダウンロードが可能です。ぜひ、ご利用下さい。

医療費の使われ方など、もっと詳しく知りたい方はコチラ
 なるほど 診療報酬 検索

横倉会長は、2日目のセッションの開会に際し、WMA会長として、

横倉会長は、2日目のセッションの開会に際し、WMA会長として、

平成29年度都道府県医師会小児在宅ケア担当理事連絡協議会

医療的ケア児を支援するため初開催

福祉関係者も交えて



昨年年度には会

内に小児在宅ケア検討委員会を設置して検討を進めていることに触れ、「小児の在宅ケアに関しては、医療だけでなく、福祉、保育、教育などさまざまな関係者が連携して支援していくことが重要であり、医師会と行政との連携も欠かせない」として協力を求めた。

厚生労働省の対応

三好圭厚労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課障害児・発達障害者支援室長は「児童福祉法の改正、障害児福祉計画等について」と題して講演。平成28年の児童福祉法等の改正により、障害児のサービス提供体制の計画的な構築のため、市町村と都道府県に「障害児福祉計画」の策定が義務づけられたことを概説した。

小児在宅ケアを巡る現状と課題

田村正徳埼玉医科大学総合医療センター小児医療センター長は「総論」として、出生数が減少傾向にある中で、1500グラム未満の極低出生体重児が増加しており、特に1000グラム未満の超低出生体重児は35年間で約2倍に増加したことを解説。NICUに1年以上、入院1年未満に人工呼吸管理のまま退院する子どもが肩上がりである

平成29年度都道府県医師会小児在宅ケア担当理事連絡協議会が10月18日、日医会館大講堂で開催された。

松本吉郎常任理事の司会で開会。冒頭、あいさつに立った横倉義武会長は、「現在、全国には在宅で医療的ケアを受けながら療養している子ども達約1万7000人いる。これまでの在宅ケアは高齢者が中心であったが、地域包括ケアシステムの一環として、小児にも対応すべきである」と述べ、初開催となる本連絡協議会の趣旨を説明。

等利用計画（障害児支援利用計画）について、対応に地域格差があることに言及。支給決定後の計画のモニタリングが十分でない地域があることや、医療的ケア児の計画作成を担える相談支援専門員が十分に育っていないことなどを課題に挙げた。

前田浩利医療法人財団は「たか会理事長は「在宅医の立場から」として、数分間も目を離せない医療依存度の高い子どものケアで疲弊している親の状態に触れた上で、地域における医療・生活支援につなげるためのケアマネジャー的存在が不足していると強調。また、重度の肢体不自由・知的障害を前提とした「重症心身障害児」に当てはまらない、歩けて話せるが、日常的に医療機器と医療的ケアが必要な子どもが増えているとし、障害福祉制度の支援からもれていることを指摘した。

福岡寿日本相談支援専門員協会の立場から「相談支援専門員の立場から」として、相談支援専門員の活動の様子を動画で紹介した上で、サービスの支給決定に当たり、特定相談支援事業者作成が義務づけられた「サービス

医師会の取組み

松本（吉）常任理事は「日本医師会の小児在宅ケアに関する取組みについて」として、小児在宅ケア検討委員会が本年4月に都道府県医師会に対して行った「小児在宅ケア提供体制に関する調査の結果を紹介。①医師、訪問看護師等を対象とした小児在宅医療研修会が一部で開催されている

保②平成30年度末までに、各都道府県・圏域・市町村に保健医療、障害福祉、保育・教育等の関係機関等が連携するための協議の場を

野田正治愛知県医師会理事は「愛知県における医療的ケアの必要な子どもたち特に超重症児を外に連れ出す試みについて」と題し、屋外に出たことがない人工呼吸器をつけた子ども達などに大きなスクリーンで映像を見せる企画を実施していることを紹介。医師・看護師・理学療法士等からなる実行委員会の下、医学生も含め多数のボランティアが移動支援や付き添いを行い、ボランティアには医療的ケアも学んでもらうというもので、保護者には別室で交流する「パパママカフェ」を、その兄弟には思い切り遊べる場を、それぞれ提供しているとした。

また、平成30年度障害福祉サービス等報酬改定に関する厚生労働省のヒアリングで、重症心身障害児に当てはまらない医療的ケア児への支援の充実等を要望したことを報告した。中尾正俊大阪府医師会副会長は、府医師会として1992年から委員会を設置し、実態調査や小児在宅医療研修会の実施、医療的ケアマニュアルの発刊など、先駆的に取り組んでいることを紹介。今年の10月からは、地域医療介護総合確保基金を活用し、成人移行が近い患者を対象に、内科医等と小児科医による「同行訪問研修」をモデル的に実施していることを報告した。府医師会としては、引き続き専門医療機関や大学、小児科医学会・内科医学会との連携に

ニチイリブ
電子書籍アプリ「日医Lib」の活用を
—『日医雑誌』特別号も読めます—

電子書籍配信サービス「日医Lib（日本医師会 e-Library）」で読むことができる電子書籍が410を超えました。今後もコンテンツの充実をめざしていきますので、ぜひ、ご活用下さい（詳しくは、「日医Lib」で検索）。

配信コンテンツ 拡大中!

日医Lib
日本医師会 e-Library

日本医師会設立70周年記念式典並びに医学大会 受賞者の功績紹介

日本医師会最高優功賞のうち、都道府県医師会会長推薦による「医学、医術の研究又は地域における医療活動により、医学、医療の発展又は社会福祉の向上に貢献し、特に功績顕著なる功労者」と、その受賞理由を紹介する。

学校保健活動及び地域医療体制の確立に貢献した功労者



武藤 康正 先生
(83歳 三重県)

開業直後から26年間学校医を務める一方、四日市医師会役員として、健康教育にも熱心に取り組み、各種予防接種問診票を作成するなど学校保健業務に尽力した。また、県下の初期救急医療体制の充実・強化や幅広い人材の確保を目指した看護師の養成を図るとともに、老人訪問看護制度創設に伴い、行政及び看護協会と連携して老人訪問看護ステーションを設置する等、現在の管内の在宅医療の礎となる体制の構築に多大に貢献した。

地域住民の健康保持及び福祉の増進に貢献した功労者



田村 瑞穂 先生
(81歳 青森県)

青森県医師会役員として、県下の医療・福祉・介護活動を始め、弘前大学医学部学生への寄付講座講師として、医師会活動の周知に貢献した。また、弘前市の健康推進協議会長、献血推進協議会長、学校保健会会長を歴任し、各種検診の奨励や伝染病の予防、献血の推進・普及並びに体制の確立など、市民の健康生活の推進を図るとともに、地域包括支援センター運営協議会並びに地域密着型サービス運営協議会長として、高齢者の介護や福祉支援活動に多大に寄与した。

地域の保健・医療・福祉の向上に貢献した功労者



菊池 英彰 先生
(78歳 兵庫県)

29年にわたり地域住民の健康管理に尽力。常に自治体の要職を務め卓越した指導力を発揮し、会員への指導・管理はもとより行政と綿密な連携を図り、地域医療の推進と発展に努めるとともに、結核の適正な医療が遅滞なく行われるよう、西宮市の結核治療の要の一翼を担った功績は極めて顕著である。また、生活習慣病の増加等に伴い、行政の依頼を受け「健康ひょうご21県民運動推進阪神南会議」会長に就任。現在も推進員の教育に熱心に取り組んでいる。

漢方医学の発展に著しく貢献した功労者



寺澤 捷年 先生
(72歳 福島県)

日本の伝統医学の継承者である氏は、神経内科専門医として臨床に携わる中で、大学院で専攻した中枢神経解剖学の知識を漢方に採り入れるなど、新たな研究に果敢に挑戦。自身が創生した漢方医学を主軸に西洋医学を活用する「和漢診療学」の理念は、漢方の歴史上、そして日本の医学の歴史において初めての画期的な業績と言える。また、釣藤散に認知症の改善効果があることを明らかにするなどの科学的研究の功績は極めて大きい。

産科医療及び地域住民の健康保持増進に貢献した功労者



坂口 守彦 先生
(80歳 奈良県)

産婦人科医として長年にわたり地域のお産を支え、産科医療に貢献。大和高田市医師会役員を歴任中には、同医師会立葛城メディカルセンター会長及び葛城地区休日診療所の管理者を兼務し、集団検診、がん検診等の各種健診事業及び救急医療体制の推進・向上にも尽力した。役員退任後の現在も、市保健センターの乳幼児健診等に献身的に取り組み、地域住民が安心して健やかに暮らすことができる環境づくりに努めている。

地域医療及び公衆衛生の向上に貢献した功労者



箕輪 真一 先生
(89歳 群馬県)

昭和46年から高崎市医師会役員を歴任。直面する保健、医療の課題に取り組むとともに、「新潟港外タンカー事故」の際には現地へ赴き、汚染現場を体験。この実経験を基に、公害や環境対策推進活動に一層尽力した。また、昭和38年開業以来、41年間の長きにわたり地域の学校（園）医を務め、児童・生徒・教職員の健康保持増進を図るとともに、食生活調査を実施する等、将来の成人病予防、肥満児対策等の一環として食育にも積極的に携わっている。

地域における医療・介護提供体制の確立に貢献した功労者



寺岡 暉 先生
(82歳 広島県)

地区医師会役員として、広島県の中山間地域の医療の推進を図るとともに、介護保険制度施行に向けて医師会館に在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所を順次開設した他、関係者が患者の情報を共有できる「在宅医療情報共有システム」を構築する等、在宅医療・在宅介護の充実を積極的に推進した。また、市政政策顧問等を歴任し、医療・介護等の総合的政策の実現に向けて専門的見地から提言を行うなど、住民が安心できる医療提供体制の充実に果たした功績は多大。

地域医療及び外国人患者受入環境整備に貢献した功労者



向山 秀樹 先生
(71歳 神奈川県)

34年以上の長きにわたり地域小児科医として尽力。特に、地域在住の外国人やその家族が日本で安心して暮らせるよう、地域住民との交流の場として診療所を開放した他、診療所や病院を受診する際の言葉の問題を解決するため「22カ国外国人来診患者問診票」を策定し、無料で配布するなど、地域住民への貢献は顕著である。また、小児科医として、地域の重症心身障害者の会や知的障害者の会等を結成し、その運営に尽力するとともに、不登校児の問題解決のための支援活動に力を注いだ。

地域医療及び保健衛生の向上に貢献した功労者



島本 政明 先生
(72歳 高知県)

地域に根差し患者に寄り添った医療の提供のみならず、文化や福祉、まちづくり活動等さまざまな分野で幅広く活躍。高知市医師会及び高知県医師会役員を歴任中は、主に地域医療担当者として地域医療の発展向上に尽力した。また、県警察協力医として昼夜問わず臨場し、毎年40～50件（市内の大半の検案）を行う中で、検視官への的確な助言や遺族等に丁寧かつ親切に説明し不安を解消する等、検視業務全般に多大に貢献した。

警察への協力活動に著しく貢献した功労者



加藤 寿彦 先生
(79歳 愛知県)

平成2年から現在に至るまで、警察医として、被留置者延べ21,000人以上に月2回の定期健康診断を実施し、被留置者の健康管理に努めるとともに、留置施設内の衛生管理や季節ごとの健康上の留意点についての知識の啓発・助言を行うなど、保健衛生の指導に多大に貢献。昼夜休日を問わない検視依頼にも対応し、その取り扱い件数は200件を超えている。また、警察署員からの健康相談にも気軽に応じるなど、署員の健康管理指導にも熱意を持って当たった。

地域医療及びアルコール健康障害対策に貢献した功労者



竹元 隆洋 先生 (77歳 鹿児島県)

精神科医としてアルコール関連問題に卓越した見識を持ち、九州アルコール関連問題学会長並びに日本内観学会会長などを務めた他、アルコール専門病棟、内観療法研修棟を設置し、長年にわたり内観療法に取り組む等、アルコール関連問題の第一人者として活躍。

更に、一般県民の目線に立った医療・医師会のあるべき姿を構築するため、「医療モニター制度」や「苦情相談窓口」を県行政より先駆けて県医師会内に設置する等、患者と医療機関との信頼関係の構築に多大に貢献した。

学校保健及び小児保健の向上に貢献した功労者



田崎 考 先生 (80歳 佐賀県)

学校心臓検診の判読・判定に積極的に従事するなど、その実績は広く信頼を得るところとなり、県医師会成人病予防センター学校心臓検診専門委員会委員長に就任。県内の学校心臓検診事業の中心的役割を果たした。

また、1次検診で採血検査を取り入れる「小児成人病モデル検診事業」の実現に大きな役割を果たすとともに、小児生活習慣病検診導入に向けた研究会を立ち上げ、関係者の質と意識の向上につなげるなど、県内だけでなく各地の学校保健、小児保健の発展にも大きく寄与した。

学校保健活動に著しく貢献した功労者



國吉 勲 先生 (80歳 沖縄県)

那覇市医師会役員を歴任する中、学校保健事業を担うリーダーとして、学童定期健康診断実施について、会員施設並びに教育委員会等関係団体と連携の下、試行錯誤を重ね、今日の市医師会会員全員出務の実施方法や所見のある児童を専門医へつなぐ体制を確立した。

また、事前に学校長、養護教諭等関係者と度々ミーティングを行う等、健診の円滑な推進と向上はもとより、児童生徒の健康管理、健康教育に強い信念と熱意を持って尽力した。

離島僻地医療に著しく貢献した功労者



森 正孝 先生 (74歳 長崎県)

長崎県離島医療圏組合対馬いづはら病院長等を歴任する傍ら、後進の育成や対馬の医療事情の調査・医療情報の発信等、地域医療の向上に尽力。平成20年からは、市立大村市民病院に勤務し、離島の対馬・五島地域の中核病院において、ドクターヘリを活用したへき地支援を行い地域医療を支えている。

また、対馬市医師会長として、医師会事業の発展に尽力するとともに、長崎県の離島医療史の執筆や医師の視点から薬草の本を発刊する等、その活動は幅広い。

受賞者一覧

日本医師会最高優功賞

◆在任6年都道府県医師会会長

- 嘉数 研二(宮城)
近藤 邦夫(石川)
関 隆教(長野)
柵木 充明(愛知)
寺下 浩彰(和歌山)
平松 恵一(広島)
岡林 弘毅(高知)
近藤 稔(大分)

◆医学、医術の研究又は地域における医療活動により、医学、医療の発展又は社会福祉の向上に貢献し、特に功績顕著なる功労者(都道府県医師会会長推薦)

【団体の部】

- 災害医療及び地域医療体制の復興に貢献した医師会
石巻市医師会(宮城)

【個人の部】

- 地域住民の健康保持及び福祉の増進に貢献した功労者
田村 瑞穂(青森)
漢方医学の発展に著しく貢献した功労者
寺澤 捷年(福島)
地域医療及び公衆衛生の向上に貢献した功労者
箕輪 真一(群馬)
地域医療及び外国人患者受入環境整備に貢献した功労者
向山 秀樹(神奈川)
警察への協力活動に著しく貢献した功労者
加藤 寿彦(愛知)
学校保健活動及び地域医療体制の確立に貢献した功労者
武藤 康正(三重)
地域の保健・医療・福祉の向上に貢献した功労者
菊池 英彰(兵庫)
産科医療及び地域住民の健康保持増進に貢献した功労者
坂口 守彦(奈良)
地域における医療・介護提供体制の確立に貢献した功労者
寺岡 暉(広島)
地域医療及び保健衛生の向上に貢献した功

功

- 島本 政明(高知)
学校保健及び小児保健の向上に貢献した功労者
田崎 考(佐賀)
離島僻地医療に著しく貢献した功労者
森 正孝(長崎)
地域医療及びアルコール健康障害対策に貢献した功労者
竹元 隆洋(鹿児島)
学校保健活動に著しく貢献した功労者
國吉 勲(沖縄)
日本医師会会長特別表彰者
長年にわたり学術企画委員会委員及び委員長として日本医師会雑誌の学術的価値の向上に貢献した功労者
跡見 裕(東京)
国民医療の向上に著しく貢献した功労者
西島 英利(福岡)

日本医師会優功賞

◆在任10年日本医師会代議員

- 橋本 省(宮城)
真鍋 勉(東京)
澤井 博司(神奈川)
刑部 利雄(山梨)
秋田 光彦(大阪)
山田 晃久(大阪)
空地 顕一(兵庫)
大澤 英一(奈良)
田村 公之(和歌山)
魚谷 純(鳥取)
石川 紘(岡山)
檜谷 義美(広島)
濱本 史明(山口)
下河邊 智久(福岡)
福島 敬祐(熊本)
松岡 幸一郎(大分)

◆在任10年日本医師会委員会委員

- 橋本 洋一(北海道)
深澤 雅則(北海道)
高橋 克子(宮城)
登米 祐也(宮城)
工藤 行夫(千葉)
有賀 徹(東京)
猪口 正孝(東京)
金生 由紀子(東京)
川原 貴(東京)

- 権丈 善一(東京)
坂本 哲也(東京)
神馬 哲峰(東京)
永池 京子(東京)
中嶋 義文(東京)
古井 滋(東京)
村田 真一(東京)
吉川 徹(神奈川)
神野 正博(石川)
関 健(長野)
田内 美津子(静岡)
小栗 貴美子(愛知)
松尾 清一(愛知)
松井 道宣(京都)
中村 安秀(大阪)
鈴木 克司(兵庫)
菅波 茂(岡山)
木下 成三(徳島)
大木 實(福岡)
釣船 崇仁(長崎)
森崎 正幸(長崎)
山本 太郎(長崎)
坂本 不出夫(熊本)
藤本 保(大分)
吉田 建世(宮崎)

◆都道府県医師会会長退任者

- 古谷 正博(神奈川)
小村 明弘(島根)

日本医師会医学賞

- 骨免疫学による自己免疫疾患および骨関節疾患の研究
高柳 広(東大・免疫学)
未病と予防の遺伝環境医学に関する研究
小泉 昭夫(京大・環境衛生学)
糖尿病病態の分子生物学的解析と新規糖尿病治療法開発への応用
荒木 栄一(熊本大・代謝内科学)

日本医師会医学研究奨励賞

- 新生児消化器疾患の病態解明に向けた腸管免疫細胞の網羅的解析
澤 新一郎(北大遺伝子病制御研究所)
組織幹細胞の分化・増殖機構の解明と内因性心筋再生の増幅方法開発への応用
武田 憲文(東大・循環器内科)
ペア型免疫受容体に着目したアレルギー疾患の制御機構解明と治療法開発
伊沢 久未(順天堂大アトピー疾患研究セ

- ンター)
保護的ミクログリアによる血管新生から機能回復を目指す脳梗塞治療法の開発
金澤 雅人(新潟大脳研究所・神経内科学)
DNA修復機構を基盤とした、合成致死抵抗性腫瘍に対する新規治療法の提示
中田 慎一郎(阪大・小児科学)
ガングリオシドを標的とした関節軟骨損傷に対する新たな分子標的の同定
小野寺 智洋(北大・整形外科)
子ども期の貧困及び虐待が成人期までの健康に及ぼす影響に関する疫学研究
藤原 武男(東京医歯大・国際健康推進医学)
化学物質曝露が小児のアレルギー疾患に与える影響について～社会医学と臨床医学の連携による分子疫学研究～
辻 真弓(産業医大・産業衛生学)
光を用いた肺がん制圧を目指して：小細胞肺癌に対する新規光線療法とコンパニオン診断システムの開発
佐藤 和秀(名大・呼吸器内科)
侵襲性真菌感染症に対する全国疫学調査と新規治療戦略の開発
宮崎 泰可(長崎大・臨床感染症学)
蛋白結合尿毒症物質に着目した慢性腎臓病関連疾患のメカニズム解明と治療法の開発ー尿毒症物質の生成減少と除去向上を目指すー
山本 卓(新潟大・腎・膠原病内科学)
メタボローム解析を利用した痔瘻遠隔転移予測因子の検討
千葉 齊一(東京医大八王子医療センター・消化器外科・移植外科)
前十字靭帯再建術後の靭帯折れ曲がり角度が靭帯治癒に与える影響の解明
田代 泰隆(九州労災病院・整形外科)
着床障害の分子機構の解析と新規診断・治療法の開発
廣田 泰(東大・女性診療科・産科)
尿路上皮癌の再発時に起きるゲノム異常の解析
日向 信之(神戸大・腎泌尿器科学)

白寿会員

- 森 慰子(北海道) 他46名

米寿会員

- 大野 恒吉(北海道) 他868名

案内

第23回日本医師会認定 健康スポーツ医制度再研修会

◆主催：日医
◆後援：厚生労働省、スポーツ庁
◆日時：平成30年1月20日（土）午前10時～午後4時25分

◆会場：日医会館大講堂
◆受講者資格：日医認定健康スポーツ医

◆受講人数：300名
◆参加費：会員6000円、非会員9000円（税込）

◆申込方法：申込用紙を日医ホームページ（<http://www.med.or.jp/doctor/ssi/>）からダウンロードするか、都道府県医師会から入手した上で、必要事項を記入し、直接、日医地域医療第二課宛てに郵送願いたい。

◆申込締切：12月25日（月）。ただし、定員になり次第締め切る。

◆主なプログラム：
・日常診療における運動療法指導（内科系）（木下訓光法政大大学スポーツ健康学部教授）
・超高齢社会における運動器疾患への指導と対策（中嶋寛之横浜大スポーツ医学センター顧問／東京大学名誉教授）
・児童・生徒の健康増進と健康スポーツ医の役割（藤本保大分こども病院理事長）

◆テーマ：未来につながる日医IT戦略
◆日時：平成30年2月3日（土）午後3時～、4日（日）午前9時～
◆会場：日医会館大講堂
◆参加費：無料
◆申込方法：原則、日医ホームページのメンバーズルーム内の専用ページ（<http://www.med.or.jp/japanese/members/info/ssi/2017/>）から申し込み願いたい。

平成29年度 日本医師会医療情報システム協議会

◆申し込み・問い合わせ先：日医地域医療第二課（〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16 ☎03-3942461）

・健康医療戦略の動向と地域における健康スポーツ活動（津下一代あいち健康の森健康科学総合センター長）
※なお、本研修会の受講者には、最大、再研修会5単位の修了証を後日交付する。

※当日、会館内に託児所を設置する予定（定員5名）。利用希望者は申込用紙の記入欄に記入願いたい。

ただし、日医会員に限っては、①氏名②カナ氏名③郵便番号④住所⑤所属医師会名⑥役職名⑦医籍登録番号⑧懇親会参加の有無を記入の上、FAXによる申し込みが可能となっている。

◆申込締切：12月17日（日）

◆主なプログラム：
I. 改正個人情報保護法の医療現場への影響についてー特に医療・介護連携において

II. 日医IT化宣言2016の実現に向けてー日医の医療IT戦略
III. 事例報告セッション
【地域医療連携ネットワークの相互接続モデル中間報告】
【医師会単位での取り組み事例】
IV. AIによって変わる医療の未来（今、話題の人工知能（AI）は、さまざまな分野で活用が進んでおり、医療分野も例外ではない。本セッションでは、AIによって変わる医療の未来を考察する）

◆問い合わせ先：日医情報システム課（☎03-394246135（直）、☎03-39427036（直））

※ロビー展示では、8Kモニターによる超高画質腹腔鏡手術映像の上映などを行う予定。

政治の責任

財源不足の中、医療・介護の同時改定に頭を悩ませる厚生労働省。90歳以上人口が200万人を超え、若年人口が減る中で、人件費を上げずに医療・介護の人材をどう確保するのか。問題は財源の確保だ。

2000年開始の介護保険から後期高齢者医療制度、年金改革と超高齢社会を支える制度改革が



企業の内留保は400兆円を超えたと聞く。新自由主義経済学者の口車に乗せられて、自立を強調し社会保障費を抑制したため、将来不安から若者は車も買わず、せつせと貯蓄に励む。これでは個人消費が伸びない。先進国中最も子育て支援への支出をケチってきた国で出生数が増えるわけがない。教育への公費投入を減らしてきて何が成長戦略か。財源の調達をせず赤字国債で若年世代に付け回すことは、もはや犯罪と言ってもいい。必要なのは歳出削減ではなく財源の調達であり、これは100%政治の責任だ。

その結果、国の借金は増え続け、国の財布を預かる財務省は何かか社会保障費の伸びを抑えようとする。消費税率10%への増税を延期し、日銀の大幅な金融緩和でお金をジャブジャブと流してもGDPの多くを占める個人消費は低迷したまま、タンス預金は40兆円、



ニュースポータルサイト「日医on-line」では定例記者会見の映像等、さまざまな情報をご覧頂けるようになっています。ぜひ活用下さい。

<http://www.med.or.jp/nichiionline/>

南から北から

秋田県
秋田医報
No.1520より

ただ今、発作中

柳谷 直樹

私は2年周期で、初夏もしくは冬に困った発作に襲われる。それは毎日使う車が欲しくなる発作であり、今まさにその発作中である。

毎日車通勤で往復100キロメートル、そのうち85キロメートルくらいが高速道路走行をする私にとって、車は単なる必需品というだけではなく、仕事をするためにも必須な道具である。プロ（自分は通勤のプロと自負している）が使う道具は趣味性も必要だろうが、道具として優れている必要がある、更には目的にかなうものを選ばないといけないと考える。

では私の車を選ぶポイントは何かというところ、4枚以上ドアがあること、ホイールベースは長めで直進安定性に優れること、車高は低めで八郎潟、日本海から吹き付ける高速走行時の強い横風に車体が揺らされないこと、ゴルフバッグを真横に積むことができることである。

これらを満たす車は必然的にセダンかステーションワゴンとなり、ハッチバックやコンパクトカー、今はやりのSUVやミニバンは自ずと選択肢から外れることとなる。セダンで考えると国産にもたくさんあるが、デザインが好きになれないので、どうしても外国車へと気持ちは向かう。

サスペンション系の交換が必要で、維持費が高額になる上に、現時点での下取り査定額は雀の涙にもならない想定以上の低下だった。

現在の状況を目の当たりにし、私は開業当初の車2台体制とした自分の判断が正しかったことを確信した。1台体制では過走行が半端じゃない、それに伴う維持費が増

千葉県
月刊柏市医師会報
平成29年2月号より

駅伝随想

志賀 元

有老人ホームで暮らす身寄りのないお年寄り、Tさんの部屋をある日訪ねると、所狭しと段ボール箱が積み上がっていた。

「自宅を処分しようと思いついて、コレクションを全部こちらに持ってきてしまいました」とTさん。中には、若い頃から集めていたという膨大な量の切手コレクションがあった。それも単純な単片コレクションではなく、初日カバーとエンターイア（封筒やはがきに貼られた状態のもの）が大量である。

切手ブーム全盛の1960年以降の記念切手の単片は、ほとんど価値のす、そして飽きが来るのである。この状況を打破すべく、発作中の私が考える腹案がある。それは中古を買うことであり、それも10年以上経った車で非常にお得なものという案である。私が今まで乗った中で最も可愛かったレガシーと同型の出玉があり、こんな古い安い車を増車することには周りもあまり抵抗しないだろう。なんて良い懐柔策だ。（後日談。思いの外、抵抗が強かった……）

にやら可燃ゴミと化していることもしばしばである。ただ、私の場合は生来のコレクション魂が淡いのか、少し状況が違っている。高校卒業の頃まで収集を続けたのみならず、その後も母親（私のコレクション癖は彼女から受け継いだものに違いない）が記念切手の購入を続け、1991年まではコンプリートの状態で手元に残っていた。

時々、流行病のように復活する情熱とともに、少しずつ買い足しながら、「私も収集家の端くれです」と言っても恥ずかしくない程度のコレクションはそろっていたのだ。そんなわけで、月に2回Tさんを訪ねる度に、切手談議に花を咲かせるようになった。Tさんのコレクションは、それはたいしたものであり、戦前の記念切手は昭和立太子札の10銭（日本の記念切手史上最高価値のもの）を除いてほぼコンプリート、戦後の切手は普通切手まで含めた初日カバー（発行日に押印されたもので、記念切手はともかく普通切手はかなり珍しい）の状態で、大量にお持ちであった。

立太子札に次ぐ記念切手の逸品、試験飛行は見たこともないような美品で、ため息が出るほどのものであった。そんなTさんでも最近の情勢はあまりご存知ないようで、「この切手は今のどのくらいの価値があるのですか？」などと私に尋ね、評価額を教えてくださいてもらった。

そんなことが続くうちに、私のコレクション魂に再び火がついてしまった。インターネットという便利なものが普及している現代では、クリニクに居ながらにして世界中のカタログを眺め、注文することが可能。少なくとも中断したコレクションのプランクを埋めようと、平成以降の記念切手を注文しているのだが、驚くなれば、この25年間に発売された日本切手の種類は、明治4年以來それまでに発行された種類の3倍にも上るのだ。

近年では年間に500種類が発行されており、82円切手を一枚ずつ購入しても年間4万円という、小学生の小遣いでは手の届く趣味ではなくなっているが、中高校に差し掛かっている私にとっては、手頃なセカンドホビー（メインホビーは昆虫標本収集である）であり、嬉々として毎週のように切手商に注文メールを送るようになった。

年が明けたある日のこと、Tさんの部屋を訪れると、山積みになっていた段ボールがすっかり片付いていた。

「業者が値段をつけてくれたので売ることになりました。150万くらいになったんですよ」嬉しそうに、半ば寂しそうに笑うTさんであったが、あのコレクションの見事さから言って、少し買ったたかれた感はない。それでも、これから

宮崎県
日州医事
第807号より

年賀状

福留 理恵

11月になるとそろそろ年賀状のことが気になり始める。まず、自分で書くか、業者に頼むか。宛名は？パソコンの調子は大丈夫か？ 何枚準備すればいいか等々である。

毎年、気掛かりな相手が多いという気がする。毎年、気掛かりな相手が多いという気がする。毎年、気掛かりな相手が多いという気がする。

一人は中学の頃の担任の先生だ。もう約30年間年賀状のやりとりをしてきている。今年の正月は立派な筆跡の年賀状が届いたが、いったい何歳にならなれているのだろう。年賀状が無事届くとホッとす

もう一人は臨床実習で初めて受け持った患者さんだ。その方は当時60代前半だった。元看護士だったこともあり、学生の私を温かく見守ってくれていた。それから毎年、年賀状のやりとりを行っている。国家試験に合格した時、研修医になった時、とっても喜んでくださった。もう20年も会っていない。本日に年賀状だけのやりとりである。

一度だけ年賀状が届かない年があった。お独り暮らしだったので高齢で暮らしたたので高齢でもあるし、心配になり電話してみた。その年は年賀状を書くのがおっくうだったらしい。翌年からは印刷の年賀状に一言添えた形になっていた。

今年度の正月はお二人から届くだろうか。1年に1回年賀状だけのやりとりの方がたくさんいらっしゃるが、52円でつながっていられる年賀状は本当に素晴らしい文化だと思ふ。（一部省略）

勤務医のページ

勤務医座談会（最終回） 8月4日開催

「勤務医の参画を促すための地域医師会活動について」をテーマに

をテーマに

泉(司会) 「医師会の認識」について発言下さい。

小林 病院の幹部候補になると、立場上、医師会に入るといのが現状で、若い世代に医師会にどう関心を持たせるかが大事だと思います。

守屋 若い方達は本当にリアリティックな判断をされるので、医師会の方角性としては、若い人達にすり寄っていくか、あるいは弁護士会ではないですけども、強制的に入れてしまおうか、どちらかの形がよいと思います。

木村 岩手県では、県内にある医師会の研修会員の会費を全て無料化しています。そして、毎年4月に、研修医向けの歓迎会を県医師会主催で開催し、そこで研修医全員に入会してもらいます。その後、医師会がどう活動しているのかアピールしていきますがほとんどの研修医は、研修が終わって会費が有

りません。地域で医療に携わるようになると、医師としてだけではなく行政や法律などの広い知識と、人脈も必要になると感じるので、医師会の方々が非常にサポートに教えて下さった経験があります。また研修が終わったばかりの6年目の医師を地域に溶け込ませてくれたのは、医師会の先生方だったと今も感じています。

木村 職場を移動する際、医師会は三層構造なのでそれぞれに入り直さなければなりません。ただ入り直すにしても、その土地に長くいるとは限らないので、一度、医師会を全て辞めた経験があります。入会も移動も手続きが煩雑で、それで医師会の仕事が見えないとなると、誰も入らないのでは入り直さなければいけません。入退会については、せめて若い人達を対象に電子化はして頂きたいと思っています。また、配付物の電子化を一層進めて頂くことも重要と考えます。

泉 「医師会に期待すること」はありますか。

木村 医師会は、医師の生涯教育という面も担っています。医師会に入ってインターネットを通じて勉強できると、勤務医も入るメリットが非常に大きいのではないかと思います。生涯教育の電子化をもっと推進して頂けるとありがたいです。

小林 日医主催の講演会の多くは、DVD等で見られますが、そういうことが知られていないことも問題だと思っています。

木村 若手の勤務医は時間が無いので、コンテンツごとに効率よく検索と閲覧ができて、勉強できるような感じとありたいです。

守屋 開業をするためのノウハウなども提供して欲しいです。大学病院では、あまり開業のためのノウハウを持っていないかと思っています。

中川 地域医療に関して、医師がお互いに分かり合えるような体制づくりをお願いしたいです。例えば空いているベッドの状況を相互に見え化し、患者さんの紹介がスムーズにできるような連携を、医師会が音頭を取って行って頂けたら嬉しいです。

また、各地域に いるそれぞれの医師が、こういう患者さんはこのようにして受けます」というような自分のPRポイントを書いて、年に一回でもアップデートすることができれば、患者さんが他の地域まで診療に行くようなことを少しずつ緩和できるのではないかと思います。

矢嶋 開業医一人もいますので、医師会独自のコースをつくるのも面白いと思います。

木村 医師会に入る前は、医師会は偉い方々の団体だと思えて敷居が高く、また、大学病院なので、医師会を身近に感じにくかったです。中堅くらいの先生方が、もっと医師会で活躍して下さり、気軽に声を掛けられるような感じになれば、もっと若い人も参加しやすくなるのではないかと思います。

市川 日医では現在「かかりつけ医 糖尿病データベース研究事業（J-DOME）」に取り組んでおり、非専門医を含む身近なかかりつけ医に通院する糖尿病患者さんのデータベースを構築し、より良い診療のための情報提供と研究分析によって、糖尿病患者さんの治療アウトカムの向上を目指しています。

矢嶋 実際、現場から情報を集めることができれば、日本としてもとてもよいことだと思えます。

木村 例えば医師会員限定の競争的資金といったものがあると、医師会に入る若手は増えると思います。

市川 日医では年一回、「日本医師会医学研究奨励賞」として、医学上将来性に富む研究を行っている若手会員を顕彰し、一人当たり150万円を授与しています。

小林 医師は結局、どこかの組織にコミットしたいのではないかと感じています。

昔は医局 で、大学にコミットしていたのが、今はコミットする

中川 医師不足を補うという意味でも、郡市区等医師会において、各地域における医師の求職と求人とのマッチングを行って頂ければ、眠っている人材の掘り起こしにもなると思います。リクルートの会社にお問い合わせすると、その企業に払う費用も多額になります。また、配偶者の転勤に付いて行く女性医師も多いので、そのような方がスムーズに新しい土地で働き始められるよう、復職支援などのサポートをして頂けたらありがたいです。

市川 本日は貴重なご意見を聞かせて頂き、ありがとうございます。

泉 本日は貴重なご意見を聞かせて頂き、ありがとうございます。

木村 医師会のホームページに関しては、例えば、医師会専用のアプリケーションを作って、情報共有に利用するのもいいのではないのでしょうか。

市川 本日は貴重なご意見を聞かせて頂き、ありがとうございます。

泉 本日は貴重なご意見を聞かせて頂き、ありがとうございます。

木村 本日は貴重なご意見を聞かせて頂き、ありがとうございます。



勤務医座談会出席者	
泉 良平 (司会) (日医勤務医委員会委員長・富山県医師会副会長)	市川 朝洋 (日医常任理事)
木村 尚人 (岩手県立中央病院医療研修科長兼脳神経外科医長)	守屋 普久子 (久留米大学医学部病理学講座助教)
小林 利彦 (浜松医科大学医学部附属病院 医療福祉支援センター特任教授・静岡県医師会理事)	中川 麗 (札幌徳洲会病院プライマリリセナーセンター長)
矢嶋 宣幸 (昭和大学リウマチ膠原病内科講師)	小林 朝洋 (敬称略)